

PROGRAM NOTE

2016

近藤譲：カッチャ・ソアヴェ

ピアノ独奏のための

Caccia soave

for solo Piano

この作品は、アメリカのトイ・ピアノ奏者フィリス・チェンから委嘱を受けて 2016 年に作曲されたトイ・ピアノのための《カッチャ》Caccia のピアノ版である。「カッチャ」は、イタリア語で「狩り」の意だが、民衆的な「歌の追いかけっこ」（即ち、輪唱）の音楽形式の名前でもある。

私の《カッチャ》も、二声部による輪唱の構造（つまり、厳格な同度のカノン）でできている。とはいえ、二つの声部が同じ音域で複雑に絡み合っているため、その構造を耳で認識することはできない。したがってこの音楽は、二声部の結合から次々と生み出されていくリズム＝旋律的パターンの絶えざる変化の過程として聴こえることになる。

トイ・ピアノのための《カッチャ》をピアノに移すにあたっては、曲全体を低く移高し、テンポを幾分遅くし、トイ・ピアノの場合の打楽器的な奏法をレガートに変更し、フレーズ記号をすべて付け直し、そして更に、ピアノの低音弦の共振を利用して全体の響きに残響を付け加えた。この残響は、この音楽全体を曖昧模糊とした響きの霧の中にすっぽりと包み込む。それによって、このピアノ曲は、原曲のリズムックな性格を保ちながらも、ずっと「柔らかな(soave)」音楽に変質している。

近藤譲

初演：2017年3月(東京)

初演者：井上郷子(ピアノ)

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：5分